

夏の高気圧と負渦度領域に覆われ

この夏一番！連日のダクトオ - プン！

2000年 8月24日 ~ 27日 JG0TEV 中村 豊

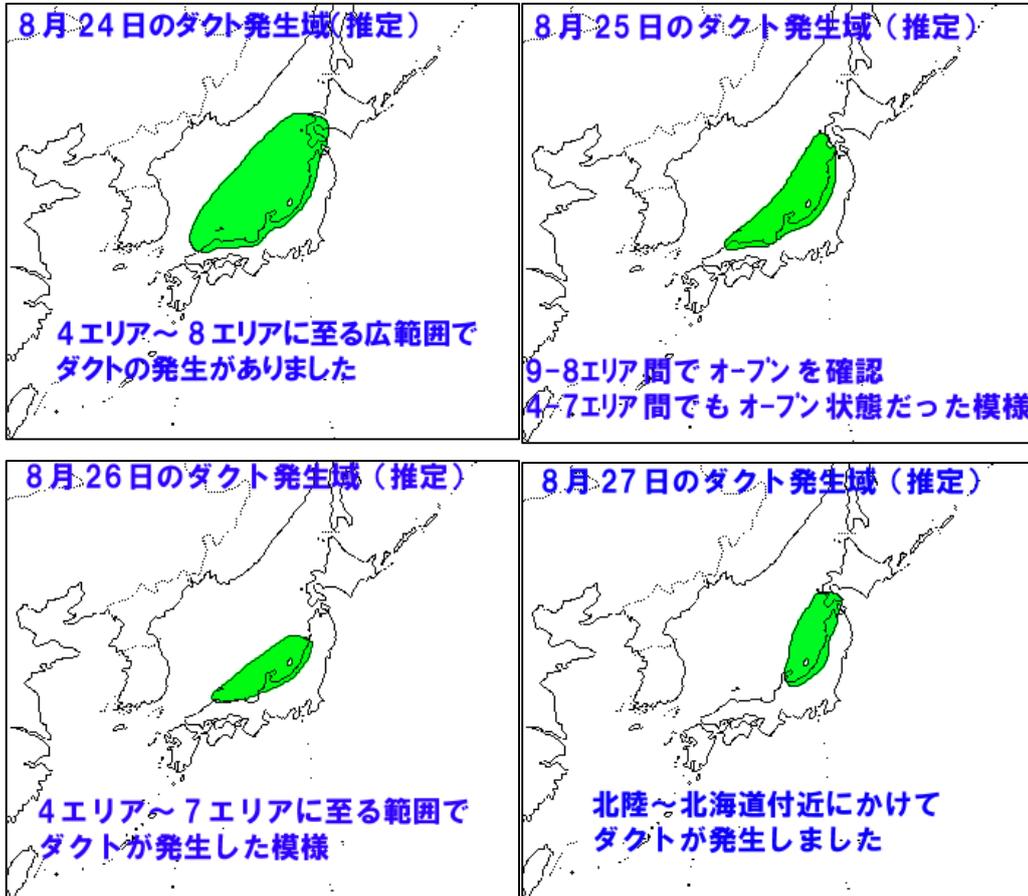
1.はじめに

今年、(2000年)の夏はホントに暑い夏です。

これは太平洋高気圧が日本付近で勢力をとどめているためで長い今年の夏の特徴といえます。

さて、24日~27日にかけては連日のようにダクトが発生し、最大時は少なくとも8エリア~4エリア付近にかけての広範囲に渡るダクトの出現となりました。

今回のオ - プンについて気象解析を行うとともにダクト発生 の裏付けを行います。



2.気象解析 ~ ダクト発生についての裏付け

ダクト発生前日の23日から27日にかけての気象状況の推移についてまとめます。

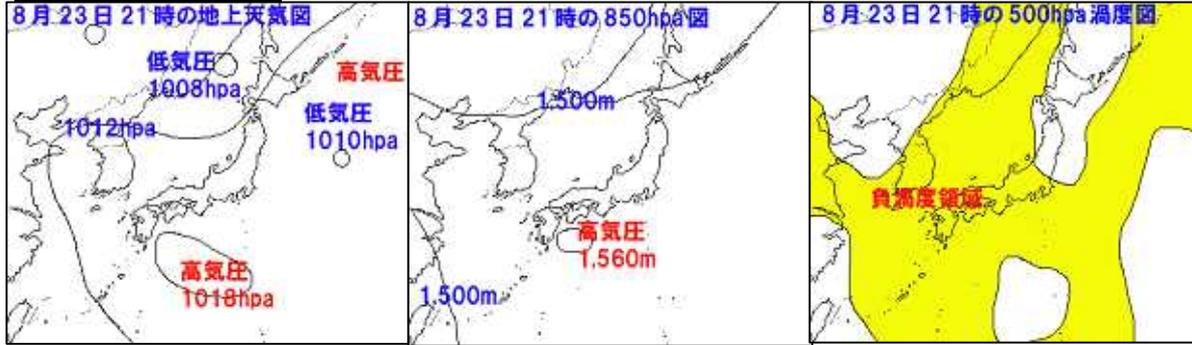
8月23日の気象状況

日本付近は上空にまで達する背の高い太平洋高気圧に覆われましたが、北日本から東日本にかけては正渦度領域に覆われました。

日本海で1012hpaの等圧線が南にへこんでいることから弱い気圧の谷があると予想できます。

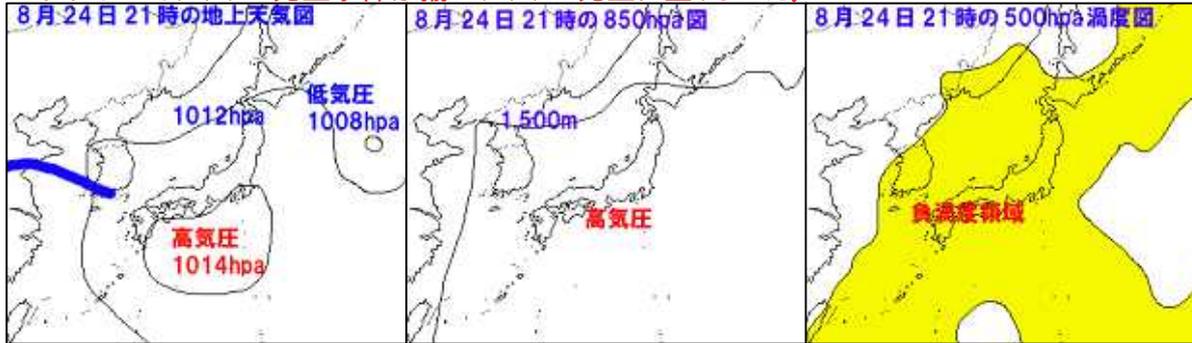
西日本ではダクトの発生があったかもしれませんが、少なくとも東日本や北日本でのダクトの発生は確認していません。

8月23日の気象状況



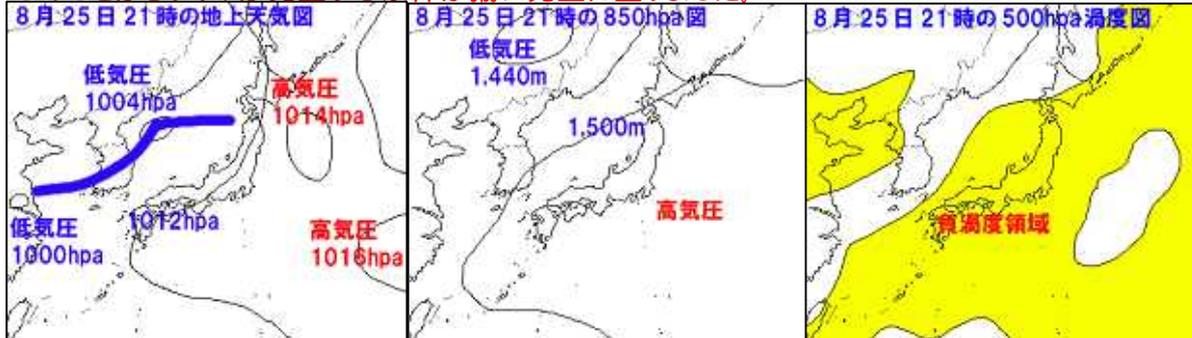
8月24日の気象状況

日本付近は正渦度領域にすっぽりと覆われ、高気圧にも覆われました。
1012hpaの等圧線は日本海で北上し高気圧の勢力圏内に入りました。
これによってダクトの発生条件が揃いダクトの発生に至りました。



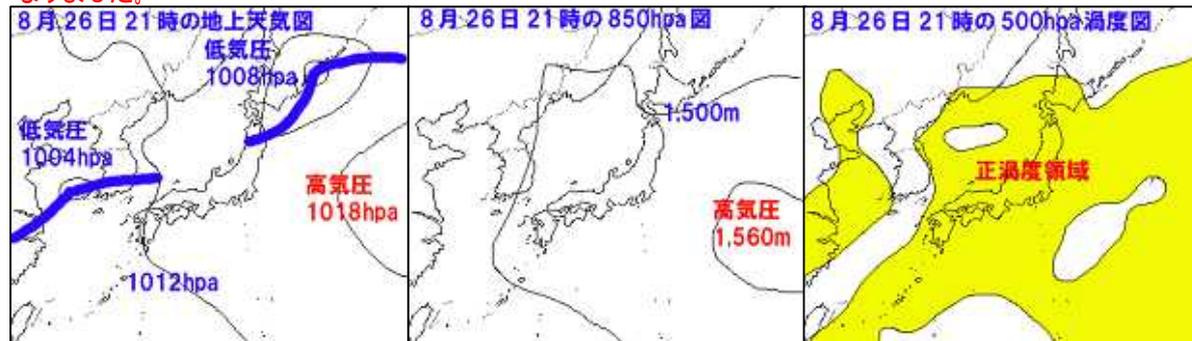
8月25日の気象状況

日本海に低気圧が進んできましたが、一方で北日本に高気圧の中心が出現、日本付近は引き続き高気圧圏内です。
負渦度負領域も広く日本付近を覆いつづけました。
このことからダクトが発生する条件が揃い発生に至りました。



8月26日の気象状況

北日本では気圧の谷が通過しましたが、東日本や西日本では引き続き高気圧に覆われました。
日本付近は引き続き高気圧に伴う負渦度領域に覆われてダクトの発生条件が揃いオ - プンとなりました。



8月27日の気象状況

気圧の谷が通過した北日本で高気圧が張りだしました。

気圧の上昇とともに引き続き高気圧に伴う正渦度領域に覆われたことからダクトの発生条件が揃いました。

西日本では湿った空気が流れ込み始め、また前日からの変化量もほとんど無かったことからダクトは発生しにくくなったと思われます。



3.最後に

今回のオ - プンはここまでで今年6月15日～21日にかけての7日間連日オ - プンに続く4日間連続のオ - プンとなりました。

(さらに28日にオ - プンが確認できなかったことを経て29日～31日にかけてもダクトオ - プン)

これは上空の高気圧に広く覆われるとともに、高気圧による負渦度領域に覆われたこと、そして高気圧の勢力がほどよく「ゆらぎ」を持っていたために連日に渡るダクトの出現につながったことなどの好条件が重なったといえます。

ただ、非常に残念なことは430MHz-FMバンドにQRVされている局が極めて少なく、遠方エリアのレピ - タ - だけがガンガンと受信できるというケースが多くあったようです。

いまや、ダクトの出現を予想して運用することよりも相手局を探し出すことのほうが難しくなってきたようですね。